

東京の教育

復刊第十二号

東京都教師会発行

(事務局) 横浜市都筑区茅ヶ崎南四ノ十四ノ一ノ三二〇

勝岡寛次氏新刊

『天皇と国民の絆』に想ふ

佐藤健二

明星大学戦後教育史研究センター(以下、研究センター)の勝岡寛次氏が、明成社から『天皇と国民の絆』といふ著書を出版された。勝岡氏は、この夏東京で開催された教研大会で記念講演をして頂いたので、大会に参加された方は、その時の講演「日本の近現代教育と天皇―今上天皇の譲位を来年に控えて―」を思ひ出されるかもしれない。ご紹介する著書の中には、その時お話をされた二百年前の光格天皇の譲位に触れた一章も含まれてゐる。

この著書には副題に「占領下の苦難を越えて」とあるやうに、降伏受諾要件としてあった「国体護持」について占領下においてどのやうな論争があつたかといふことについて多くの頁を割いてゐる。論争の相手は必ずしもGHQばかりではなかつた。「国体」に代はつて多く使はれるやうになつた「天皇制」といふ用語が、最初は専ら「天皇制打倒」といふ文脈の中で使はれたといふことから、その用語の背後にゐた日本人たちがどのやうな人々であつたか分かるであらう。そのやう

な思想を持つ同じ日本人との闘争もあつたのである。

著者が「国体」といふ語にこだはるのは、「国体護持」を条件に日本は降伏したはずなのに、新たに制定された「日本国憲法」や「教育基本法」には「国体」といふ語がどこにも使はれてゐない。「戦後世代にとつては、『国体』といふ言葉は『死語』にも等しい響きを伴つてゐるが、『国体』といふ言葉、並びにその言葉が意味してゐた日本人の精神の在り様に、一体何が起つたのだらうか。これは筆者が占領史研究に着手した大学生の頃から、久しく抱いてゐた疑問の一つであつた。この疑問を解明することも、本書を執筆する大きな目的の一つである」(十九頁)と書かれてゐることからも明らかであらう。

私は本書を送つて戴いてから、少し読み始めたのであるが、ページを繰る度に、胸が熱くなり、涙腺がゆるむのを禁じ得ないのである。本書で引用されてゐる多くの文章は、勝岡氏が勤務する研究センターに所蔵されてゐる占領軍検閲雑誌(プランゲ文庫)に基づくものである。それらは総て占領下の日本人の生の姿を示す第一級の史料であり、氏はその「マイクロフィルムを縦横に駆使し、占領軍によつて検閲されたために、陽の目を見る

ことがないまま、歴史の闇に葬られてしまつた多くの史料に再び光を当てながら『天皇と国民の絆』が如何に守られ来たのかを(三頁)究明された。作為を排し、ひたすら史料に基づきながら、どういふ文章のどういふ部分をGHQは日本人の目から覆ひ隠し、戦前と戦後とを精神的に分断しようとしたのか。その事実を前にして、著者は、少しでもそれを元に戻し、戦前と戦後との精神の紐帯を復活させ、「天皇と国民の絆」の真実を我々に届けようとする、その著者の熱誠に強く打たれるのは、私だけではないはずだ。

氏はかつて、同じくこのプランゲ文庫に依りながら、GHQによる教科書黒塗りの実態に迫つた名著『抹殺された大東亜戦争』を世に出されてゐた。本書はそれに続くものであり、特に戦後の「国体」問題や昭和天皇のお姿、ご巡幸等を、今我々がほとんど目にすることの出来ない当時の雑誌を多く引用しながら、実証的に描き出す。その雑誌とは、例へば「多摩」であつたり「新児童文化」であつたり、「黎明」であつたり「光輪」であつたりである。

その中の一つである「多摩」は、都立第四高等女学校(現南多摩中等教育学校)の校友会誌である。昭和天皇は、昭和二十一年三月一日に同校にご巡幸になつた。著者はその経緯を「この女学校校舎は戦災で跡形もなく焼けてしまつたが、先生と女生徒が自力で校舎を再建したことが上聞に達し、お立ち寄り

が決まった」と書く。陛下をお迎えした女学生達の感激は言ふまでもない。その思ひを三年生の一女生徒が書き、「多摩」に発表した。その引用―

「しばらくは呆然として夢ではないかと思ひました。しかし夢ではありません。おそば近く陛下を拝させていたゞける、又親しくみことばまで賜りましたことは未だかつてなかつたことです。(中略)

我は日本人なり

何万年何千万年経つて、どんな変動がありまして陛下を戴きあふぐのが日本人です。

純の日本人なれば心の底には必ず万世一系の天子様を尊び奉る心があるはずです。

私は心の中で「天皇陛下万歳」と何度も何度も叫びました。

今もなほあの御麗しき神の如き御姿がはつきりと浮かびます。(一五二頁)

当時高等女学校三年生の生徒の作文である。ご巡幸に際して、今まで直接お姿を拝することなどできなかった至聖の御存在を目の前にした感動が、胸に熱く伝はつてくるのではないか。この文章に対して、GHQはどのやうな検閲を行ったか。実に「我は日本人なり」以下の文章をバツサリと削除したのである。この女学生の正に魂の叫びとも言ふべき部分を切り捨てたのである。その理由は「神の末裔たる国家主義的宣伝」だといふのだ。GHQ、つまり「敵側」が何を恐れてゐたかが判

るであらう。本書では、削除部分はすべて網がけで示されてゐるので、ページを繰るごとに、網がけ部分が蓄積され、戦前まで大事にされてゐたどのやうな感情や考へ方、表現が「敵」により否定され、戦後の「言語空間」の中で死語化されていつたかが跡づけできるのである。この作業は、長年における著者の丹念な史料の読み込みと、的確な史料批判があつて初めて可能なことであり、その背後に存在する著者の鍛へ上げられた歴史観に私は感服する。

内容は、第一章 終戦の大詔と国体護持をめぐつて 第二章 天皇と国民の絆 第三章 占領下の憲法と皇室典範をめぐる攻防 第四章 占領下の国体論争 第五章 昭和天皇のご巡幸 第六章 ご巡幸の中止と昭和天皇のご苦悩 第七章 ご巡幸の再開と昭和天皇 第八章 講和条約と「おことば」をめぐつて 第九章 昭和天皇と今上天皇 第十章 光格天皇の祈りと今上天皇の祈り 最終章 今上天皇の「おことば」の意味を考へる (発行 株式会社明成社 本体価格 千九百円 平成三十年十月二十三日初版第一刷) (会員)

戦前の中学国語の教科書を読む (七)

「次の文章は、『現代国語読本 巻二』(八波則吉編著 昭和十年版)所収。学

年では、現在の中学一年後期に当たる。表記は原則原文のままである。殊に送り仮名は現在と異なる所が多い。漢字は、原文は正字であるが、パソコンで正字に変換できないものは、常用漢字で表記してある。読み仮名は、新たに加えたものがある。」

藤樹先生 楠 南谿

先生は俗稱中江與右衛門といひて、江州大溝の在中小川村の産にて、分部侯の領地の百姓なり。王陽明流の學者なりしが、其の德行近時の學者の及ぶ所にあらずとぞ思はる。

熊澤先生はその門人なれど、其の功績をいへば、いふべき所もすくなからず。されども其の人も今時は得難しとぞ思はる。此の人藤樹先生に従はれし初を尋ぬるに、其の頃、加賀の飛脚、金子二百兩を預り持ちて京へ下るに、江州河原市より輕尻の馬を雇ひ、榎木の宿に泊る。馬方は河原市へ歸り馬のすそを洗はんと鞍を解きしに、鞍の下より財布一つ出でたり。取上げて見れば金二百兩あり。馬方大きに驚き、「今の飛脚の取忘れたるにこそ。」と思へば、其のまゝ榎木に走り行き、飛脚の泊れる宿に到り、對面し委しく尋ね問ふに、相違なければ、其の金取出して返しけるに、飛脚は死したる者の蘇りたる心地して、喜の餘り行李より別の金子十五兩を取出し、馬方に與へ、「若し此の二百兩なくば、己が一命を失ふのみならず、親兄弟までも重き罪に到

らん。されば、その高恩なか／＼言葉の盡すべきにあらねども、先づ當座の御禮までに贈り奉る。」と涙を流し喜ぶに、馬方大いに驚きし顔色にて、「そなたの金をそなたの取納め給ふに、何の禮言ふ事あるべき。」とて、手にだに取らず。

色々にこしらへ言へども、更に受けずして歸らんとする故、段々已むことを得ず、終には金二歩となし、「せめてこればかりは我が心の悦なれば受け給ふべし。さなくては、我が心も濟み申さず、今宵も寐ね難し。」と、理を盡し詞を盡して言ふにぞ、「此の金を受け申すほどならば、二百兩をもとめ置き申すべし。斯く返し申すからには、聊かにも謝禮を受くるは我が心にあらす。さりとして餘儀なく宣へば、さらば鳥目二百文を賜はるべし。此は今夜休むべき所を是まで追掛け來れる賃錢なり。此は我が取るべき錢なれば申し請くべし。」と言ひて、二百文にて酒を買ひ、其の家の人に振舞ひ、我も酔ふほど飲みて歸らんとす。

飛脚も感に堪へ兼ね、「さるにても、そこは如何なる人にておはする。」と問ふに、「名ある者にあらす、又何一つ知れる者にあらす。たゞ我が在所の近所に小川村といふ處あり。此の村に與右衛門といふ人おはして、夜ごとに講釋といふことあり。某も折節行きて聞き侍りしに、『親には孝を盡すべし。主人は大切にするものなり。人の物は取らぬものなり。無理非道は行ふべからず。』などいふこ

と常々語り給ふにより、今日の金子も我が物にあらざれば、取るべき理なしと心得しまでのことなり。」と言捨てて歸りぬ。

飛脚はそれより京へ上り、いつもの宿に到り、「さて此の度は辛き命生延びて、各方にも對面することとなりぬ。」とて、ありし次第を委しく語るに、折節、其の家の裏に、熊澤次郎八田舎より上りあて、學問修業中の事なりしが、此の物語を聞きて、「其の人こそ誠の儒といふものなれ。」とて、其の翌日直ちに江州に至り、小川村を尋ねて隨從を願はれしに、「人に教へ申すべき程の學徳なし。」とて、更に隨從を許し給はず。熊澤只管に願ひて、二日が間藤樹の門に佇みて歸らず。藤樹の老母之を氣の毒がり、「よしや、先づ内へ入れ申せよ。」とありし故、辭み難くて内に入れ、終に師弟の契約をせられしよし。其の後、藤樹を備前より招き給ひしに、其の身は病身なりと固く辭し、「門人熊澤といふものあり。御役にも立つべきものなり。」とて、熊澤を出されけり。いづれも格別のことどもなり。(東遊記)

(原文の注)

橘南谿 宮川春暉。伊勢國(三重縣)の人。

江戸時代後期の文人・醫師。文化二年(二

四六五)歿。年五十三。 ※編集者注 括

弧内の数字は皇紀。

藤樹先生 中江與右衛門。名は原。近江國(滋

賀縣)の人。江戸時代前期の儒者。慶安元

年(二三〇八)歿。年四十一。

熊澤先生 通稱は次郎八。號は蕃山。岡山藩

に仕へた。江戸時代前期の儒者。元禄四年

(二三五一)歿。年七十三。

二歩 一步は一兩の四分の一。

備前 岡山藩主池田侯。

(編集者注)

分部侯 近江国大溝藩二万石の大名。

王陽明流 儒学の中でも王陽明の始めた陽明

学に属すること。

鳥目 金錢の異称。

□短信寸評□

次のやうな歌があることをご存じだらうか。

前進歌

島田春雄 作詞作曲

一、友よ!

肩を 互ひに組まう!

道は遠く 吹雪は猛ける

前進 前進 前進 前進

スクラム前進だ!

足並が ひとりでに 自然に揃ふ

誰も皆 心から 楽しいからだ!

二、友よ!

人は 進路に悩む

砕け 雪を 氷を 岩を

前進 前進 前進 前進

われ等はラッセルだ!

足並が ひとりでに 自然に揃ふ

誰も皆 心から 楽しいからだ!

三、友よ！

武器は 言葉だ ペンだ

目ざす 行手は 祖国の春だ！

前進 前進 前進 前進

飽くまで前進だ！

足並が ひとりでに 自然に揃ふ

誰も皆 心から 楽しいからだ！

四、友よ！

仰げ 日の丸の旗

地軸ゆるがせ われ等の前進歌！

前進 前進 前進 前進

輝く前進だ！

足並が ひとりでに 自然に揃ふ

誰も皆 心から 楽しいからだ！

「前進歌」と題するこの歌は、実は沖縄教職員会の愛唱歌である。この会は昭和二十二年に結成された沖縄教育連合会が前身で、昭和二十七年にこの名称となった。管理職らも含む組織で、所謂職員団体ではない。五十年以上も前のことでこの歌の成立事情などは明らかになってきておられないが、作詞作曲の島田春雄氏は元國學院大學教授である。

ご存じの通り、沖縄県は敗戦後米国の施政権下にあつて、日本の主権が及ばなかつた。そのためいろいろ不都合なことも生じ、沖縄県人は祖国への復帰を目指すことになり、県民を上げて沖縄県祖国復帰協議会に結集した。さうして長い運動の末、昭和四十七年五月、実に二十七年ぶりに祖国復帰を果たした

のである。

この復帰運動の中心母体になったのが沖縄教職員会である。沖縄県の小中学校の教員たちは本土復帰を願つて祖国愛教育として、日の丸の旗を掲げ、君が代を歌つて県内を行進した。また、日の丸の旗を沖縄教職員会が率先して共同購入もしてゐたのである。

しかし、本土復帰運動が高まつた頃から、教職員の意識に齟りが出てくる。昭和三十五年及び昭和四十五年の日米安全保障条約改定期に過激な反体制行動に出てゐた勢力が、その失敗から闘争の矛先を変へて、沖縄を標的にし始めた。大量の過激派が沖縄に押し寄せ、沖縄を階級闘争の拠点になどといふスローガンを作つて結集し出したのである。自分の立場を誇示できない「学者」や「文化人」などと報じられた不満分子が沖縄を中心に反体制闘争を展開し始めたが、その裏には一部の「マスコミ」や国内外の機関などが影響を与へてゐるともいられる。

その結果、次第に沖縄教職員会も変質し、本土復帰に際し米軍基地が残ることを理由として反基地闘争に転じた。さうして復帰直前の四十六年九月には解散を余儀なくされる。その後作られた職員団体によつて沖縄の教育は現在のやうに大きく歪められてしまひ、今日の混乱を招く一因となつたことは、周知の通りである。

「前進歌」は四番が削除されたうえ、今でもこの団体が歌はれてゐるらしいが、定かでない。

はない。

沖縄は祖国愛にあふれる地であつた。沖縄県の元教諭で復帰運動に携はつた崎山用豊氏は「日の丸と君が代は、祖国復帰を願うわれわれの心の支えだったんです」(27・6産経新聞)と語つたといふ。(ふ)

皇居東御苑内にある果樹古品種園には、江戸時代の果樹が植ゑられてゐる。現在あるのは、柑橘類、日本梨、桃、李、和林檎、柿で、それぞれ教品種づつである。平成二十年に今上両陛下がお手植ゑになつたものもある。品種改良などによつて元の木が失はれて行くことをご憂慮になつてのことと伝へ聞く。三の丸尚蔵館とともに是非参観されるとよい。

◎「東京の教育」への会員の皆様のご投稿をお待ちしています。

字数は三千字程度以内でお願いします。ただしこれより長いものは数次に分けて掲載することもできます。

仮名遣いは古典現代いづれかに統一して下さい。また、写真や図版はご相談ください。

送り先は題字下にあります。また、メールの送り先は次の通りです。

事務局アドレス(佐藤)

komasato@juno.ocn.ne.jp